

～松家工房体験記～

はじめに

新しい家で生活し始めて、何ヶ月か過ぎました。今、本当に気持ちよく生活しています。家族のみんなが笑顔で生活しています。その気持ちよさとは何だろう？あらためて我が家がどのようにして建ったのかを振り返ってみました。

つくり手の顔、土地探しのこと、使用している材料、材質のこと、デザインに対する思いなどなどのすべてがはっきりしている。だから安心して納得して生活することができる。

本当にいい場所にいい家を建てていただいたと思っています。

松村さん、江熊さんには我が家を建てるにあたって、本当にご尽力いただきました。何とお礼を言ってもいいのかわかりません。

何かお礼と思っても、できることは限られています。私たちにできることは、松家工房で建てさせていただいて感謝している気持ちを一生懸命伝えることではないかと思いました。

これを読んでいる人に松家工房の素晴らしさを少しでも伝えることができたらと思っています。

出会い

ある9月の夕方6時。これが2件目の工務店訪問であった。

前回、行った工務店では簡単には説明していただいたものの、家に対して素人で、年齢も若く、土地も持っていないこともあってか簡単にあしらわれた気がした。簡単に言うと門前払いのようであった。

今回もきっとそうであろうと、あまり期待せずに訪問した。手には100円ショップで買ったものを手にぶら下げての訪問。あまり期待していなかったことが自分でも良く表れていたと思う。

そもそも、家探しを始めてからまだ日が浅く、家のことについては本当に素人だった。当初は、一戸建てにするのかマンションにするのかどちらにするのかを迷っていた。

まずマンションのモデルルームに出かけた。いくつか見てまわったがいいものが見つからない。なかなか納得できるものがないし、第一マンションについて知らないことが多すぎる。耐震偽装の事件もあったばかりだったので、マンションに対する不安はなかなか拭い去れない。

次に、建売の一戸建てを見に行った。使っている素材に疑問を持つことが多く、「本物感」がなかなか伝わってこなかった。いろいろ説明は受けたもののここに長く住み続けたいという気持ちが起こらなかった。

マンションも建売も、買うと決めると巨額のローンが発生する。よく、住み替えを想定して「まずはマンション」とかいう話を聞いたが、将来、ローンを払いながら買い換えるだけのお金が溜まるという保証もないし、そもそも住み替えを想定して生活するのも心地よいものではないと思う。そうかといってずっと賃貸に住み続けるのも家賃がもったいない。

そして、誰が建てたのかわからない家にローンを抱えながら住むことへの抵抗感もなくならなかった。

そこで、初期投資はかなりの巨額になるが、納得して安心して住めるような家探しを始めることにした。こうして工務店巡りが始まったのである。

どうやら、松家工房のHPを見ての来客の記念すべき第1号であつたらしい。HPを立ち上げてすぐの来客に二人とも驚いていた。この二人と言うのが「社長の松村さん」と「コーディネーターの江熊さん」。これから長い付き合いが続く二人との最初の出会いであつた。

適当に話をして、適当にあしらわれて、30分もすれば帰ろう……。これがこのときの正直な私の気持ちである。

不動産や建築関係って、こわい、胡散臭い、よく分からない、そして失敗ができない。こんなプレッシャーがある中での買い物である。建築や不動産関係に知り合いのいない私にとっては今までにない緊張感があつた。こんなとき頼りになるのは自分のカンだけである。

さて、お二人との話が始まった。

最初は、二人とも私に気を遣っていただいて、私の話を聞いてくれた。家探しの経緯、工務店を探していること、家に対する思いなどを話したと記憶している。

江熊さんに「どんな家がいいですか？」

と聞かれたので、

「普通の家がいいです」

とこたえた。

最近目にするような奇抜なデザインではなく、「家！」という感じのものがよかつたのである。今思うと、普通と言うのが一番困つたであろう。

このときに自分が言いたかつたことは「元来素材のもっている力」を発揮できる家がいいということである。身体にいい家が一番である。そして、素材を生かした家造りでは、年数が経つほど素材の味が出てくる。本物の家づくりをお願いしたのである。

本当は『お客様』である私の話に対して、松家工房の二人が答えてくれるのであろうが、いつの間にか松家工房熱弁会となつていた……。

とにかく熱い。二人とも初対面の私によくもこれだけ話をするものだと思った。

「すみません、本当は私たちが話を聞かなければいけないのに、自分たちの話ばかりしてしまつて。私たち営業苦手なんです。まあ、こうやって自分たちのことわかつてもらえたらなと思ひまして。」

これが二人の言い分である。

本当に二人ともよくしゃべつていた。でも、本当に楽しい時間であつた。

これではっきりしたことは、二人が本当に自分たちの仕事に誇りをもつていて、楽しく仕事をしているということである。私も一生懸命自分なりにこだわりをもって仕事をしているつもりである。だからお二人が一生懸命に仕事をしていることが良く分かつた。それに、私の質問に対して実に誠実に且つ明確に答えてくれる。これは仕事に対する情熱があるだけでなく、何より本当に自分の仕事を自分のものにしていくということである。これはお二人のこれまでの努力と経験によるところであろう。二人とも本物の仕事人だということである。

こうして、運よく松家工房のお二人と出会うことができた。はっきり言って、松家工房のお二

人と出会ったこのときに、我が家の家づくりの成功が確定したようなものである。

たった二件の工務店巡りで決定していいのかとお思いの方もいると思うが、これ以上探しても松家工房以上の工務店を見つけることは難しいと思った。これは全く根拠のないカンであるが、私は人生で肝心なときの直感がよく当たるのである！？

土地探し

土地のもつ力を侮ってはいけない。せっかく松家工房ですばらしい家を建ててもらっても、いい土地ではないと家の良さが発揮できない。それに気持ちよく生活できない。どこに、どんな家を建てるかということが重要である。

これは、土地を購入してから、実際に住んでいる今現在までずっと実感していることである。そしてきっと、今後も実感し続けることであろう。

松家工房の HP に掲載されるのであるから、このコーナーは要らないのであるが、土地選びが家を建てるのにどれだけ重要なのかを実感するので書いてしまいました。

土地に関しては「裕住宅」の矢野さんを紹介していただいた。こわい顔の人だった…。

いろいろ根掘り葉掘り聞かれて、まるで尋問のようだった。後で思い返すと笑い話だが、当時はいろいろ緊張することばかりであった。

初めて会ってから何日かして、矢野さんが一緒に土地巡りをしてくださった。全部で 20 件弱見てまわった。いい土地を見分けるには、土地をたくさん見なければわからない。土地巡りの車中でいい土地の条件を教えていただいた。(いい土地の条件については裕住宅の HP 参照)

後日、いくつかしぼって、江熊さんにも実際に土地を見ていただいた。矢野さんに土地の説明を受けても土地の良し悪しを本当に理解することは難しい。江熊さんには家を設計、施工する立場で見ってもらった。

このときは3ヶ所見てまわった。1件目、2件目とまわっていった。矢野さんと江熊さんと会話しながら「淡々と」進んでいった。

最後、3件目に土地を見に行った。

初めてこの土地を見たとき、江熊さんの目つきが変わったのを見逃さなかった。江熊さんのスイッチが「パチン」と入った音が聞こえたような気がした。

もともといい土地だと思っていたのだが、初めての大きな買い物である。はっきり言って不安である。江熊さんの気合に火が付いたので、自分の決心にも自信がもてた。

土地の契約のときに松村さん、江熊さんが一緒にいてくれた。人生で初めて大きなお金を使う決心をするときで、不安や緊張、迷いなどいろいろな思いがある中で、一緒にいてくださったことはとても心強かった。

打ち合わせ

当たり前だが、家造りの根幹をなす過程である。

約半年間、毎週日曜日は打ち合わせであった。

本当に一つ一つ丁寧に説明してくれるので、楽しく決めていくことができた。それにこちらの疑問や質問に的確に答えていただいた。

詳しく書いていくときりがないが、こうやって一つ一つを大切にしてお家が建つということが本当によくわかった。これが、家に対する愛着にもつながるのだと思う。

ただ、世の中にはどうすることもできないこともある。予算と言うものはいかんともし難い問題である。そこで、無理してでも使いたいもの、涙をのんであきらめないとものをきちんと分けないといけない。当然の成り行きとして、後で変えられないもの（壁、床）にはウェートをかけ、後で何とかなるものに対しては涙をのむことにした。

また、何度も現地へ運んで建築現場を見せていただいた。時には現場での打ち合わせもあった。建築中の行程を詳しく見させていただけたのも大変ありがたかった。

進化していく我が家を見て、毎回毎回驚いた。

完成

いよいよ、松村さん、江熊さんからかぎを受け取った。新しい鍵を使うと、これまで使用していた工事用の鍵はもう使えない。そのことをお二人がしんみりと教えてくれた。お二人が我が家にかけてくれた愛情の大きさを感じた。

建築中の様子が一転して、完成した家はとってもきれいだ。光り輝いているといっても大げさではない。家が完成してもここに住む実感はわかかなかったが、これからここで生活できると思うとわくわくしてきた。

「では、この辺で」

と、鍵を渡して去っていく二人の背中が寂しかった。

おわりに

大きいハウスメーカーに注文する方が安心と思う方も多いかもしいないが、松家工房では、家造りに携わっていただいた方々の顔が見えて、何度も綿密な打ち合わせができて本当に良かったと思う。

私たちは年齢が若く、家に関しては本当に素人。松村さんや江熊さんに

「これは本当にいいものなんですよ～」

と言われても正直わからない。ある意味張り合いのない客だったと思う。

けれども、何年も何十年も住んでいくことで良さがしみ出していくことを実感している。例えば、夏は湿気が少なくものすごく生活しやすい（特に、たまに実家に帰ったときに実感する）。床を見てほっとする。リビングで眺めると一つ一つの素材のよさが感じられる。一つ一つにたくさんの方々の思いが詰まっている、そんな家である。

こんな家は、お金を出せば必ず手に入るものではない。松家工房とめぐり合えたおかげだと思う。

4月に生まれた子どもを「本物の家」で育てられることに喜びを感じています。

松家工房で家を建てていただいて本当に良かったと思っています。

ありがとうございました。